

⑤ 第5委員会

「食べ物^{とど}が安定的に届くまちづくり」



それでは、第5委員会の意見を発表します。

第5委員会のテーマは、「食べ物^{とど}が安定的に届くまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、私^{わたし}たちは、7月22日に中央卸売市^{おろしうり}場本場の施設^{しせつ}見学を行いました。

そこで、私^{わたし}たちは、マイナス50度の教室より大きな冷蔵庫^{れいぞうこ}で、マグロなどが真っ白の氷のように凍^{こお}っていたこと、また、名古屋市民に安定して食料^{とど}を届けるために、1日で1万人以上が働いていることを見ました。そして、新鮮^{しんせん}さと安全^{たも}を保つためには、冷気^にが逃げない工夫や、温度調節が必要なこと、そして、電気をたくさん使うので、電気エネルギーが大切だと思いました。また、働いている人^{かんしゃ}に感謝して生活したり、食べたりしないといけないなと思いました。

その後、私^{わたし}たちは、施設^{しせつ}見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするためには、何をすればいいか考えました。

それでは、私^{わたし}たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

^{わたし}私は、名古屋市民に安定して食料を^{とど}届けるために毎日1万人もの人が働いているということが印象に残りました。食べることは生きる上で^ふ必要^{かけつ}不可欠です。名古屋市民230万人に安定して食べ物^{とど}を届けるために、毎日^{おおぜい}大勢の人が働いているのです。

^{みな}皆さんは毎日言っている「いただきます」にどんな意味^こを込めていますか。食材をつくってくれる人、料理をしてくれる人、そして食材への^{かんしゃ}感謝だけでなく、毎日朝早くから働く人への^{かんしゃ}感謝をみんな^{わす}が忘れない、思いやりのあるまちになるといいと思います。

○子ども議員

^{わたし}私は「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするには、^{せんど}鮮度が安定していて、どの食べ物も決まった温度で^{ほかん}保管されているといいと思います。

○子ども議員

中央卸売市場おろしうりは、日本各地や海外から集められた野菜、果物、魚、肉など、たくさんの生鮮食料品せいせん しょくじょうが貯蔵されています。食料品はそのまま置いておくと質しつが落ちていき、野菜や果物は収穫しゅうかくした後も呼吸こきゅうを続けているので、エネルギーや水分を消耗し、味が悪くなったり見た目もしなびてしまいます。そこで、本場では野菜や果物は15度からマイナス1度、魚や肉は0度からマイナス50度と、品物によって温度調整をして低温貯蔵ちようぞうすることで、微生物びせいぶつの働きや野菜、果物の呼吸活動こきゅう かいどうを抑え、品質ひんしつの低下おさを抑えています。競りてきせいなどで適正てきせいな値段ねだんも決めます。本場は僕たちの食生活を支えるために大切な役割やくわりを果たしているのだと、見学をして実感しました。

○子ども議員

僕ぼくが見学した名古屋市中央卸売市場おろしうり本場では、名古屋市が1日に必要とする食料の量の約3分の1を供給きようきゅうしています。ほかの二つの市場などで残りの量の約3分の2を賄まかなっています。

しかし、災害さいがいなどが起きたときに、一つの市場でも稼働かどうできなくなったら、必要なだけの量が供給きようきゅうできなくなり、私たちの暮らしにも影響えいきょうが及ぶ可能性およ かのうせいがあります。なので、市場たよに頼らないで名古屋市の外から食料しょくじょうを直接ちよくせつもらうようなことが必要だと思います。

○子ども議員

僕が印象に残ったことは、名古屋市民に安定して食料を届けるためにするため、1日に約1万人の人が働いているということです。なので、その1万人もの人が働いてくれるから、僕たちは食べるものに困ることがありません。

感謝して、名古屋でつくられたものを買うようにする。このように僕たちにできることがあります。ほかには、よいものは宣伝する、スーパーのチラシを見て、より安くてよりよいものを買うなど、たくさんあります。名古屋市民に安定して食料を届けるために、みんなが努力すれば、みんなが笑顔になります。これで終わります。

○子ども議員

僕たちは、名古屋中央卸売市場本場へ行きました。そこで品物に
応じた温度管理をするために、800トンもの野菜を保管できる冷蔵
庫を見学してきました。安全安心な生鮮食料品を届けるためには、
こうした施設や冷蔵庫が必要だということがわかりました。

また、名古屋市民に安定した食料を届けるために、1日で1万人以上もの人が働いていて、さまざまな役割があることを知り、驚きました。僕たちは、働いている人たちに感謝して生活しなければならぬと思いました。

○子ども議員

私は、「食べ物^{わたし}が安定的^{とど}に届くまち」にするには、食べ物^{わたし}を運ぶトラック^{ゆうせん}優先^{ゆうせん}の道路^{ゆうせん}をつくったほうがいいと思います。

なぜかという^{ふつう}と、普通^{ふつう}の道^{じゅうたい}だと渋滞^まに巻き込ま^これてしまう^{かのうせい}可能性^{かのうせい}があるからです。なので、市バス^{ゆうせん}優先^{ゆうせん}道路^{ゆうせん}があるように、食べ物^{ゆうせん}を運ぶ^{ゆうせん}トラック^{ゆうせん}優先^{ゆうせん}道路^{ゆうせん}をつくるととても便利^{ゆうせん}だと思います。

○子ども議員

食べ物^{わたし}はいろいろな人の工夫^{とど}によって私^{わたし}たちの口^{とど}へ届^{とど}くということがわかりました。これをずっと続^{こうけいしゃ}けていくには、後継者^{こうけいしゃ}を育てていくことが大事^{とど}だと思います。そして、もう一つ大事^{とど}なことは、環境^{かんきょう}だ^{とど}と思います。

なぜかという^{はいすい}と、工場^{はいすい}や家庭^{えいきょう}からの廃水^{あた}が海^{あた}に影^{えいきょう}響^{あた}を与^{あた}えて、魚^{えい}がとれなくな^{えい}ってしま^{えい}ったら、魚^{えい}を食べ^{えい}ることができ^{えい}なくなります。そこで、私^{わたし}たちがそれを少し^{わたし}ずつなくすために、ごみ^{わたし}の分別^{わたし}などをみんな^{わたし}が心が^{わたし}けていけば、いつ^{わたし}までも食べ物^{とど}を安定的^{とど}に届^{とど}けられるのではない^{とど}かと思^{とど}いました。

○子ども議員

僕が、「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」で最も印象に残ったことは、マイナス50度の冷蔵庫^{れいぞうこ}です。中はとても冷たくて、体が凍り^{こお}そうでしたが、ここまで冷やさない^{しんせん}と食べ物が新鮮ではなくなってしまうのだと思いました。マイナス50度の冷蔵庫^{れいぞうこ}の中には、主にマグロ^{こお}などがありました。マグロがとてもカチコチに凍^{こお}っていて、白くなっていました。これも「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にとって大切なことなんだなと思いました。

○子ども議員

「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするために、私^{わたし}が見学したことについて自分なりにまとめました。

皆さんは、青果物と水産物^{みな}を知っていますか。青果物は主に野菜や果物です。水産物は加工物や魚^{ほかん}のことです。青果物や水産物は出荷した後どこの倉庫^{ほかん}でどういう温度^{おろしうり}で保管しているかわかりますか。ここに近い保管^{ほかん}の場所だと、中央卸売市場本場^{ちが}になりますね。物はちゃんと区別され、それぞれ温度も違^{ちが}います。青果物のカボチャやバナナは15度、キャベツやレタスだと0度、温度が違^{ちが}います。水産物の冷凍魚^{れいどうぎょ}はマイナス15度ぐらいで寒いぐらいの温度ですが、冷凍マグロ^{れいどう}は寒いだけではなく、凍^{こお}ってしまいそうな温度、何とマイナス50度なんです。温度はその食材^{しんせん}に合わせて調節しているそうです。それをすることで、新鮮^{しんせん}が保つ^{たも}のと、安心・安全・安定的な状態^{じょうたい}で皆さんにお届け^{みな}できます。つまり、「食べ物^{とど}が安定的に届くまち」にするための一つの理由だと思いました。

○子ども議員

わたしは、「食べ物が安定的に届くまち」にするには、野菜や魚を運ぶルートをもっとよくするといいと考えました。

一つが、名古屋市営地下鉄しえいを使ったらいいと思います。市場と名港線をつなぐと渋滞じゅうたいに巻き込まれないし、大雪や大雨などの天候の影響えいぎょうを受けないからです。

もう一つが、名古屋高速を市場につなげることです。市場に出入り口をつくって、そこを出入りするトラックを無料にします。そうしたら、高速道路しんせんを使って新鮮な野菜や魚を市内に早く配達できると思います。

○子ども議員

「食べ物が安定的に届くまち」にするには、食べ物を1カ所からではなく、複数箇所ふくすうかしょから入荷するために、さらに巨大な冷蔵庫きょだい れいぞうこをつくればいいと思います。

なぜなら、冷蔵庫れいぞうこをつくることで、食べ物の量を調節することができ、一つの生産地が生産できなくなったときにも、安定的に食卓とどに届けられるからです。また、食品衛生検査えいせいけんさで安全性あんぜんせいを確保かくほする以外にも、海洋汚染おせん ぼうしを防止したらいいと思います。そのためには、工場の廃水はいすいを海に流さず、自分も海をきれいにする必要があると思います。

わたし
私たちが第5委員会は、このようなことが名古屋を「食べ物が安定的に届くまち」にするために必要だと考えました。

これで、第5委員会の発表を終わります。

■ おおむらけいざい とうべん 大村経済水道委員長の答弁

第5委員会の皆さん、子ども委員の皆さん、すばらしい意見発表を本当にありがとうございました。

最初は緊張でなかなか意見が言えなかった子ども委員の皆さんも、議論やりハーサルを重ねるにつれ、自分の意見を積極的に発言したり発表することができるようになりました。

これは、今後の皆さんの人生に大いに役立つことになると思いますし、そして、大きな皆さんの自信にもつながったのではないかと思います。

皆さんと一緒にこの3日間、「食べ物が安定的に届くまちづくり」というテーマで、一緒に調査研究にかかわらせていただきました。

まず、初日の7月22日に、中央卸売市場本場の施設見学を行いましたね。マイナス50度の大きな冷蔵庫に入り、大きなマグロなどが真っ白な氷のようになっていたこと。そして、かけていた眼鏡がすぐに凍ってしまった。余りの寒さに皆さんがびっくりされていましたね。

わたし
私たちのもとに安心して安定的に食料を届けるために、ここまでしっかりと温度調節をして、保存をすることを見届けてもらえたと思



います。また同時に、食べ物を運ぶルートや潰れない工夫をするために、1万人以上の人々が働いていただいていることも実感していただきました。

だからこそ、働いている方々に感謝をして食べなければならないという大切さも学んでいただきました。人としての優しさを学んでいただけたことにうれしく思います。これから、家庭での毎日の食事や給食をいただくのに、「いただきます」、「ごちそうさまでした」と心から感謝できますね。

最後になりますが、子ども委員長、副委員長を初め、12名の子ども委員の皆さんと3日間本当に大変有意義な時間を過ごすことができましたことに感謝申し上げますとともに、今回この大変貴重な経験を今後にも生かしていただきたいと思います。私どもも、皆さんからの提案を名古屋市政に生かせるように努力してまいりたいと思います。

また、この第5委員会の経済水道委員会の両副委員長、松田指導主事には、アドバイスや御協力も含めしっかりと子ども委員の皆さんに向き合っていたいただいたことに感謝申し上げます、私の答弁とさせていただきます。3日間本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

